平成 23 年度実施小平市いきいき協働事業活動状況報告書

<table>
<tr><td colspan="2">１　事業名</td><td colspan="2">わかりやすい精神保健福祉講座</td></tr>
<tr><td colspan="2">２　団体名</td><td colspan="2">精神保健福祉の会　ひだまり</td></tr>
<tr><td colspan="2">３　担当課名</td><td colspan="2">障害者福祉課</td></tr>
<tr><td colspan="2">４　事業実施期間</td><td colspan="2">平成 23 年４月１日から平成２４年３月 31 日まで</td></tr>
<tr><td colspan="2">５　実施場所</td><td colspan="2">小平市中央図書館、小平市中央公民館、市内福祉関係施設</td></tr>
<tr><td colspan="2">６　事業の目的、目標</td><td colspan="2">日頃、精神保健福祉のボランティアに取り組んでいる団体が、市民感覚で企画した精神保健福祉講座を開催します。
この講座を通して、精神障がいは他人事ではなく、誰もが発症する可能性のあることに気づいていただき、一般市民に、正しい知識をわかりやすく説明していきます。
また、地域にめぐらされている精神保健福祉のネットワークを知っていただき、障がいを抱えても安心して暮らせる地域づくりに、市民が協働して取り組む必要性があることを理解していただきます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">７　事業効果が及ぶ対象者</td><td colspan="2">精神保健福祉のわかりやすい啓発を、一般市民対象に行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">８　役割分担</td><td></td><td>団体の役割</td><td>行政の役割</td></tr>
<tr><td>合意した役割分担</td><td>講座内容企画
講師依頼・各講師打合せ
チラシ・ポスター作成・配布
事前アンケート作成・配布・集計
広報依頼
講座レジュメ作成・印刷
看板・幕・受付・会場準備
報告書・資料作成</td><td>費用負担
施設見学用バス手配
市への事前職員向けアンケート配布・回収
会場確保・マイクなどの備品借用
チラシ・ポスター配布
広報掲載
講座参加・挨拶</td></tr>
<tr><td>役割の実施状況</td><td>同上</td><td>同上</td></tr>
<tr><td colspan="2">９　事業内容</td><td colspan="2">・わかりやすい精神保健福祉講座―こころ元気に
第１回　「こころ病むということ・・・」　７月２日(土)
講師：(独)国立精神・神経医療研究センター　名誉総長　高橋清久氏
日本社会事業大学大学院　准教授　古屋龍太氏
小平市地域生活支援センターあさやけ　所　長　伊藤善尚氏

第２回　「こころ支えるには・・・」　７月９日(土)
講師：小平市健康福祉部障害者福祉課
東京都多摩小平保健所　井上奈美氏
権利擁護センターこだいら　貫井大輔氏
(独)国立精神・神経医療研究センター
第３回　「こころ元気に」　７月 23 日（土）
講師：小平市地域生活支援センターあさやけ　花形朗子氏・利用者
ＮＰＯ法人ＡＣＴ小平らいふえいど　黒澤桃枝氏</td></tr>
</table>

	小平市障害者就労・生活支援センターほっと　山村　彰氏 あさやけ第２作業所　植木氏 クラブハウスはばたき　河瀬弘之氏・小澤氏 病院家族会「むさしの会」　片桐陽子氏 第４回　福祉施設見学ツアー　７月27日（水） バスツアー：小平市社会福祉協議会　→ 救護施設あかつき　→　あさやけ第２作業所 →　障害者福祉課 歩きコース：萩山駅　→ （独）国立精神・神経医療研究センター　→ 小平市地域生活支援センターあさやけ(元気村おがわ東)→　萩山駅 ・資料作成

10 事業成果

（１）目標の達成状況	市民対象の精神保健福祉講座開催で、どれだけの人数が集められるのかという大きい課題がありました。 １回目、目標人数80名のところ、参加者は142名 ２回目、目標人数40名のところ、参加者は102名 ３回目、目標人数40名のところ、参加者は73名 と、大盛況の賑わいとなりました。当日の椅子の確保が間に合わず、立ち見で講座を受けていただく状態でした。 精神保健福祉講座は、一般に、当事者・家族の方の参加が多く見られますが、この講座では一般市民の参加がかなり多く見られたことに、目標達成が満足のいく結果となりました。 講座アンケート集計によると、「わかりやすい講座であった」、「市内の精神福祉ネットワークがよく理解できた」、「もっと市民が精神保健福祉に興味を持ち、精神障がいを抱えても、安心して生活できる環境づくりに参加しなければ・・」の意見がとても多く、意義のある講座開催ができたと感じています。 ４回目の福祉施設見学ツアーは、マイクロバスの乗車人数が限られるため、歩きコースも追加し実施しました。アンケートの結果から参加者が福祉施設をより身近に理解出来たことがわかりました。
（２）解決される地域の課題 ※計画時に設定した課題が、どの程度解決できたかを記載してください。	もっとこのような講座開催をして欲しいという声も多く見られました。精神保健福祉の啓発は、１回で終わることなく、何回も繰り返し開催していくことが課題解決に繋がっていくと考えます。 医療・福祉側からの専門性の高い講座ではなく、市民にとって取り掛かりやすく、身近で参加しやすく、わかりやすい言葉で、質問しやすい環境が用意されれば、多くの市民参加が得られることが示された

	と思います。 　市民の精神保健福祉の理解が深まることにより、障がい者の方が安定した生活を送れるようなることが、最終的に医療費の削減へと結びついていきます。
（３）協働事業の受益者 ※計画時に設定した対象者が、満足が得られたか。どう変化したか記載してください。	こころの病・精神保健福祉についてのわかりやすい説明をしていくことにより、参加してよかったの声が多く寄せられました。また、アンケートの結果から当事者より一般の参加者が予想したより多く参加していたことがわかりました。 　病気・障がいの説明に始まり、精神科病院の役割、障がいに対する行政からのサポート、市から助成を受けている施設からのサポートの説明があり、すべてがまとまって、大きなネットワークが小平市につくりあげられている様子が、講座参加市民に伝えられました。 　その結果、このネットワークの一部に、市民の力がいかに必要とされているかが理解されたと思います。
（４）協働による相乗効果 ※協働したことにより、単独で事業を行うよりも、成果があったか記載してください。	これだけ効果のある大きな講座開催が、無事終了できたのは、障害者福祉課・市民協働担当の協働による成果です。 　今回の打合せを通して、精神保健に対する行政側のサポート・施設側のサポートが、より正確に理解でき、市民側からは何をしていけばよいのか、それぞれの役割が見えてきたように感じました。
１１ 今後の事業展開	精神障がい者の方へのサポートを中心にボランティア活動を行ってきましたが、一歩進めて、一般市民の方への「こころの病」の正確な知識の啓発を積極的に取り入れた事業展開を考えていきたいと思います。